

大草谷津田いきものの里 自然観察会

クモはおもしろいぞ！パート1

小川洋子（八千代市）

日 時：2018年8月5日（日）10:30～12:00 天候：晴れ

参加者：18名（大人10名、子ども8名）

担当指導員：田島正子、小川洋子

参加指導員：遠藤登志子、岡田敬子、木下順次、萩將勝、和仁道大

迷走台風12号が去り猛暑予報が出ていた8月5日は高校野球初日、松井秀喜の始球式時間と重なり参加者があるか心配だった。案の定出足が遅かったが、4組の家族と5人の指導員の参加があり、ホッとした。

時間差で来る参加者を待つ間に描いてもらったクモの絵と網を見せてクモの体の作りを説明、次に描かれた同心円と渦巻きの網を見せながら「本当の網はどちらだろう」と質問を投げ、実際の網で確かめてもらうことにした。また網を張らず徘徊して餌を獲るクモがいることを話し、「網を張るクモ」「徘徊するクモ」「クモの卵のう」「緑色のクモ」を探すことにした。

参加者に霧吹きを渡してクモ探しをスタートさせた。今回の参加者は、子どもたちはほとんどが幼児だが常連さん、こちらにまわらず自由に動きまわる。まとまって行動はできないが、網を見つけるのは上手だ。広場の植え込みのクサグモの網、それより高く垂直に張ったジョロウグモの網、これは三層構造で後ろの網には食べかすらしきものが付いている。地面近くのカタハリウズグモの網、こちらは中心にきれいな渦巻き模様がある。同じく垂直1層で飾り帶のついたナガコガネグモの網などを見つけ霧を吹きかけ、網のつくりの違いや巧みさに気づいてもらった。枠糸に触ってべたべたしないのを確認してから横糸に触れてもうと粘る、これでクモは餌を獲ることができる。草の影には卵を抱えたイオウイロハシリグモが見られ、折れた葉の中には、やはり卵を守るヤミイロカニグモの姿も。子を守る気持ちはクモも人間も同じようだ。木の枝に渡した細い糸、そこについた緑色の糸くずのようなものがクモと知り一同ビックリ。これはオナガグモ、クモを狩るクモだ。どのようにクモを狩るのか説明するとまたしてもビックリ。クサグモの網の上に下がった小さな茶色のボールのようなもの、これはチリイソウロウグモの卵で親もそばにいた。このクモはクサグモの網にかかった餌を横取りするだけでなく、時には網の主まで襲うという。そのほか腹が緑色のビジョオニグモも見つかった。

最後に当日のミッション「網を張るクモ」「徘徊するクモ」「クモの卵」「緑色のクモ」を見つけられたか尋ねると、全員の手が上がった。大草にいろいろな種類のたくさんのかずらしきクモがいるのは何故か考えもらつた。餌になる虫たちがたくさんいるからたくさんのクモが生きていく、大草の自然の豊かさを実感し、クモに関心を持ってもらえたと思う。

子どもたちからは「いろいろなクモが見られて楽しかった」、大人からは「オナガグモのようなクモがいるのに気づかなかった」「霧吹きでクモの網が良く見えて良かった」などの感想が寄せられた。